第２節　他支群の再整備

第１項　寺井山古墳群

現状　寺井山古墳群は昭和29年の旧国道８号線開設を契機に、昭和30～40年代にかけて丘陵の大部分が宅地化された。昭和45年に現在残る範囲が県史跡に指定され、昭和46、47年度に史跡公園として整備されている。指定以前から既に丘陵の木々が伐採され、周辺は宅地として開発されたことから、住宅地内にある閑静な都市公園となっている。

遺構は弥生時代終末期の区画墓１基（６号墓）と古墳時代の円墳１基（５号墳）が保存されている。能美古墳群全体では「弥生墓体感ゾーン」に位置づけている。

課題　学術的な課題として５号墳の位置づけが不明瞭な点があげられる。「弥生時代終末期の円形周溝墓」と「古墳時代の円墳」とする説があり、 能美古墳群出現期の評価とも関わることから史跡の価値を明らかにするうえでも再調査が必要である。また、 ６号墓についても「四隅突出型墳丘墓」とみる意見もあり（古川ほか2010）、合わせて再調査を行うことが望ましい。

こうした学術的な再評価もふまえたうえで、遺構の表示方法を見直す必要がある。６号墓の区画溝や埋葬施設である土坑は上端の範囲がアスファルトによって範囲表示されているが、見学者にはその意味がわかりにくい。表示方法の改善や説明板の追加などを検討する必要がある。

また、 公園整備時に植栽した木々が大きく成長し、 遺構や周辺民家への影響が懸念されることから、枝打ちや間伐を進める必要がある。さらに、指定地の周囲がかつての土採りにより崖面状になっていることから土砂の流出が見られ、史跡の保全上対策を講じる必要がある。

活用面においては、小さな史跡公園ということもあり、他支群のような団体見学で利用されることがほとんどない。史跡を構成する重要な一支群としてその価値を広く伝えるとともに、誘導サインや駐車場を設置して見学者の利便性を高める必要がある。

再整備の方針　整備上の課題としては、整備完了から40年以上が経過しており見直していくべき点が多い。上記の現状と課題をふまえ、再整備について以下の方針を優先順に定める。

①史跡の保存、管理上支障が生じる木々については適宜伐採する。【樹木伐採】
②史跡周囲の崖面について、土砂の流出防止対策を講じる。【史跡保存・防災対策】
③誘導サイン、駐車場の整備を行う。【周辺整備】
④史跡の価値を明らかにするために、５号墳、６号墓の再調査を行う。【再調査】
⑤遺構表示について、見学者がよりわかりやすく体感できる方法を検討し、再整備を行う。【遺構整備】

写真27　寺井山６号墓の遺構表示

写真28　寺井山古墳群の崖面

第２項　和田山古墳群

現状　和田山古墳群は昭和30～40年代に土採取により一部が消失したが、その後、昭和50年に国史跡に指定され、昭和52～57年度にかけて史跡公園として整備された。約4.8haの広大な面積を有するとともに、芝生広場やバーベキュー場などを兼ね備えた「ふるさと歴史の広場」が隣接し、さらにテニスコートなどのスポーツ施設も併設していることから利用者も多く、市の中央公園的な性格を有している。主要幹線の県道に近いことやバス停留場など交通アクセスが良いこともその要因となっている。

遺構は前方後円墳１基、円墳13基、方墳２基をはじめとして能美古墳群で最も多くの古墳が分布している。これらの多様な墳形、長期間の築造、豊富な出土品といった特徴から「古墳総合学習ゾーン」に位置づけている。現状の整備では多くの墳丘を復元整備し、墳形がよくわかるようになっている。

課題　整備完了から30年以上が経過し、丘陵上の木々の繁茂が目立っている。倒木により墳丘を損壊する恐れもあり、遺構を保存するうえで問題がある。また、丘陵内を薄暗くし、見学者が入りづらい雰囲気も作り出している。赤松やコナラ類を中心とした自然林として環境的に良い面もあるが、史跡の保存、活用の面から適宜伐採していくことが望ましい。

古墳の整備では墳丘の形状が復元整備されているが、埋葬施設の位置表示や特徴的な遺物の出土状況に関する表示がなく、現地での公開方法において改善の余地がある。また、かつて整備された園路についても木々の繁茂で不明瞭になった箇所やすべりやすい箇所などが見られるようになっている。同様に、指定地内に設置してあるトイレやベンチなどの便益施設、指定地外の誘導サインや駐車場も老朽化が目立っている。周回コースの見直しとともにこれらの再整備を検討する必要がある。

さらに、和田山古墳群内には３ヶ所の「土砂災害特別警戒区域」があり、史跡の保全、周辺住民の安全を確保するうえで適切な対策が必要である。

再整備の方針　以上の現状と課題をふまえ、和田山古墳群の再整備について以下の方針を定める。

①繁茂した樹木について適宜伐採を行う。ただし、和田山は希少植物など豊かな植生が確認されていることから、伐採にあたっては専門家と十分な相談を行いながら実施していく。【樹木伐採】

②指定地内の３ヶ所の土砂災害特別警戒区域について、適切な安全対策を施す。【史跡保存･防災対策】

③ふるさと歴史の広場を含めた史跡公園の周回コースを見直し、適切な園路、便益施設の再設置や修繕、撤去を行う。【活用整備】

④誘導サイン、駐車場の整備を行う。【周辺整備】

⑤墳丘の整備にあたっては、埋葬施設や遺物出土状況の表示方法を検討し、見学者によりわかりやすい整備に改善していく。必要があれば最低限の発掘調査を行い、新たな情報を発信していく。

【遺構整備・再調査】

写真29　和田山の樹木

写真30　便益施設と説明板

第３項　末寺山古墳群

現状　末寺山古墳群は昭和30～40年代に土採取により一部が消失したが、その後、昭和50年に「和田山・末寺山古墳群」として国史跡に指定され、 昭和52～57年度にかけて史跡公園として整備された。整備では５号墳（前方後方墳）のみ墳丘の復元整備が行われており、それ以外は現代まで残った古墳を「そのまま見せる」ことをコンセプトとして、墳丘には手を加えていない。

遺構は前方後方墳３基と円墳６基が保存されており、能美古墳群で唯一前方後方墳が築かれていることから「前方後方墳体感ゾーン」に位置づけている。

課題　能美古墳群の中で最も豊かな植生をそなえているが、整備完了から30年以上が経過し、木々の繁茂が目立つようになってきている。遺構の保存上支障をきたすとともに、園内を暗くして見学者が近寄りがたい雰囲気にもなっていることから適宜伐採していくことが望ましい。

遺構の整備としては、過去に行われた埋葬施設の発掘状況がそのままの７号墳や過去の開発工事で後方部の一部が削られた状態のままの２号墳など、史跡の保存上最低限の保護措置が必要な墳丘がある。

活用面では、前方後方墳が唯一見学できる支群であり、さらに６号墳は能美古墳群で２番目の規模を誇る前方後方墳でありながら団体見学等の利用が少ない。前方後方墳や古墳の1500年間の変化をそのまま残しているという本支群の特徴が見学者に伝わるような情報発信や説明板の設置等が必要である。さらに、登り口や園路の整備、案内サインや駐車場の設置を行い見学者の利便性を高める必要もある。

指定地内にある墓地については史跡の保存、活用と墓地の利用、管理の観点から、今後、管理者相互の十分な協議が必要である。また、末寺山には１ヶ所「土砂災害特別警戒区域」があり、史跡の保全、周辺住民の安全を確保するうえで適切な対策が必要である。

再整備の方針　以上の現状と課題をふまえ、末寺山古墳群の再整備について以下の方針を定める。

①繁茂した樹木について適宜伐採を行う。ただし、末寺山は希少植物などを含めて植生が豊かなことから、伐採にあたっては専門家と十分な相談を行いながら実施していく。【樹木伐採】

②指定地内の土砂災害特別警戒区域について、適切な安全対策を施す。【史跡保存・防災対策】

③史跡公園内の周回コースを再検討し、園路、便益施設の適切な再設置、修繕、撤去を行う。【活用整備】

④誘導サイン、駐車場の整備を行う。【周辺整備】

⑤墳丘の整備にあたっては、前方後方墳の歴史的意義や整備のコンセプトが見学者に十分伝わるよう墳丘の見せ方や説明板の設置を検討する。必要があれば最低限の発掘調査を行い、新たな情報を発信していく。【遺構整備・再調査】

写真31　末寺山の樹木

写真32　末寺山2号墳

第４項　秋常山古墳群

現状　秋常山古墳群は昭和30年代に丘陵の一部が削平されたが、昭和59年に河村好光氏と金沢大学考古学研究会によって大型前方後円墳が発見されて以降、旧寺井町と合併後の能美市によって発掘調査、史跡整備が行われた。調査の結果、１号墳は墳長約140mを測る北陸最大級の前方後円墳であることが判明し、平成11年に国史跡に指定された。その後、平成16～22年度にかけて保存整備工事が行われ、平成23年５月13日に史跡公園としてオープンした。

遺構は前方後円墳１基と方墳１基が保存されており、北陸最大級の前方後円墳が特徴であることから、「前方後円墳体感ゾーン」に位置付けている。

課題　整備完了から６年余りが経過したなかで、２号墳埋葬施設展示室内の水漏れ、屋外の復元埴輪の破損、地形模型の一部にクラックが生じるなどいくつかの問題が発生している。これらについては被害が拡大しないよう早めに措置を施す必要がある。また、遺構の説明板について製作時に設置個所が未定だったこともあり、説明板と遺構の位置関係が対応せず見学者に混乱を与えているものもある。

園内の木々は適度に残した状態で整備しているが、強風時に大きな枝が折れることがあり、見学者の安全面から適宜枝打ちなどの伐採が必要である。

周辺整備の点において、誘導サインの設置が十分でないことから場所がわかりにくいこと、駐車場に至る道路が狭い農道となっていて大型バスが進入できない点があげられる。県外からも見学者が訪れる支群であり、アクセスの整備は喫緊の課題である。

また、今後、一体的な史跡公園として整備される西山古墳群とどのように相互利用を図るか、周回コースなどを検討していく必要がある。

再整備の方針　以上の現状と課題をふまえ、秋常山古墳群の再整備について以下の方針を定める。

①園内にある樹木について、強風時の枝折れなどで見学者に危険性が想定されるものについては、適宜枝打ちなどの伐採を行う。【樹木伐採】

②誘導サイン、駐車場の整備を行う。【周辺整備】

③説明板や地形模型、埋葬施設展示室などにおいて整備後に不備や劣化が確認できたものについては、被害が拡大する前に早急に対応していく。【活用整備】

④西山古墳群と一体的な史跡公園として周回コースなどの活用方法を検討する。【活用整備】

写真33　秋常山1号墳説明板

写真34　駐車場への進入路

第３節　ガイダンス施設の整備

第１項　現状と課題

史跡能美古墳群を一体的な史跡として保存、活用するために、拠点となるガイダンス施設は必要不可欠である。本節では史跡と関わる能美市立歴史民俗資料館、能美市立博物館について現状と課題を整理し、今後の整備方針を示す。

（１）現状

能美市立歴史民俗資料館　現在、能美古墳群のガイダンス施設として位置づけられているのは、昭和59年（1984年）４月に開館した「能美市立歴史民俗資料館」である。当館は和田山・末寺山古墳群環境整備事業と合わせて旧寺井町によって建設され、１階高床式の鉄筋コンクリート構造で延床面積404㎡の規模を有している。

能美古墳群の解説パネルや出土品を中心に展示しているが、旧寺井町域の歴史・民俗資料も幅広く収集、保管、展示している。現在、能美古墳群出土品3,780点以上（破片資料含む）、その他の遺跡出土品約250箱（長さ65×幅40×高14.5cmサイズ）、古文書・図書資料830点、写真資料401点、民俗資料1984点の所蔵量である。資料は館内の収蔵庫と隣接する木造平屋建倉庫（約79㎡）で保管しているが、既に収納スペースは限界に達している。

資料は約134㎡の常設展示室において公開している。特別展示室はなく、年度ごとに企画されるテーマ展示などは現在行われていない。

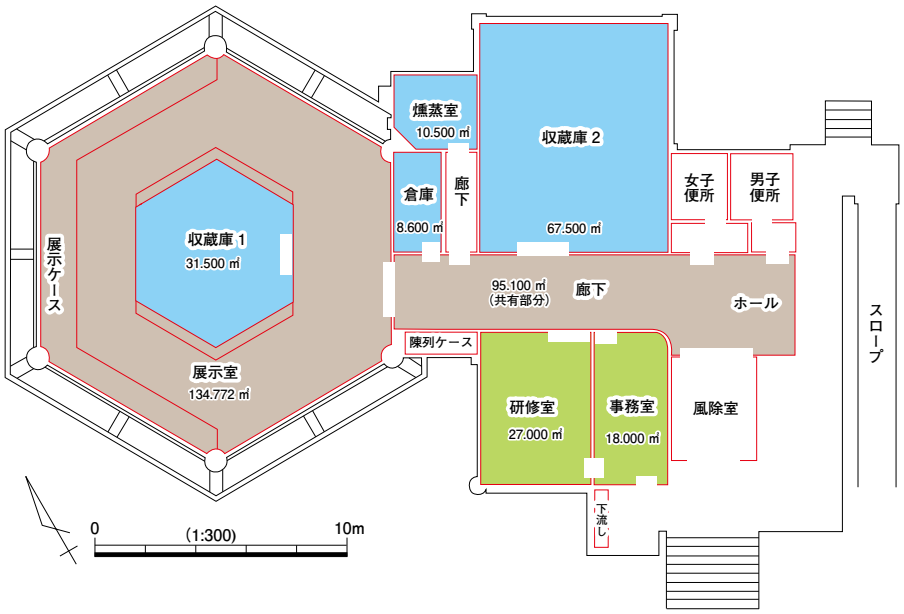
入館料は平成７年度から無料となっており、年間2,500名ほどの来館者を数える。常設展示を見学するという機能以上の設備はなく、体験事業などができるスペースもないことから、見学者が長時間滞在することはほとんどない。

施設は建築から30年以上が経過しており、漏水や床タイルの剥がれ、壁面のクラックなど老朽化が目立ってきている。また、事務室を除いた館内に空調設備が無いことから、夏は暑く、冬は寒い環境となっている。空調設備の不備は来館者の見学に支障をきたすとともに、何より資料を展示・保管するうえで望ましい状態ではない。年間の温湿度環境は、理想的な設定値と比較して不十分であり、適切な対処が必要である。実際のところ、能美古墳群出土品でも多くを占める鉄製品は昭和58年に保存処理を施しているが、保管、展示環境の不十分さから一部で劣化が進行したものも見受けられる。

さらに警備設備等も十分でなく、資料を保管するうえで防犯上の問題がある。

写真35　資料館館内

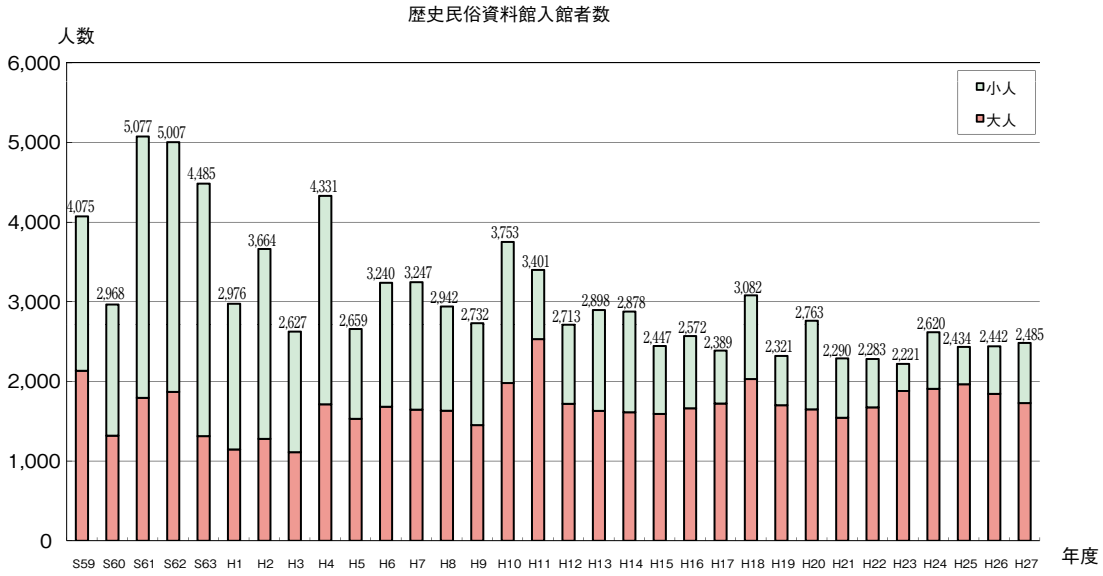
写真36　常設展示室

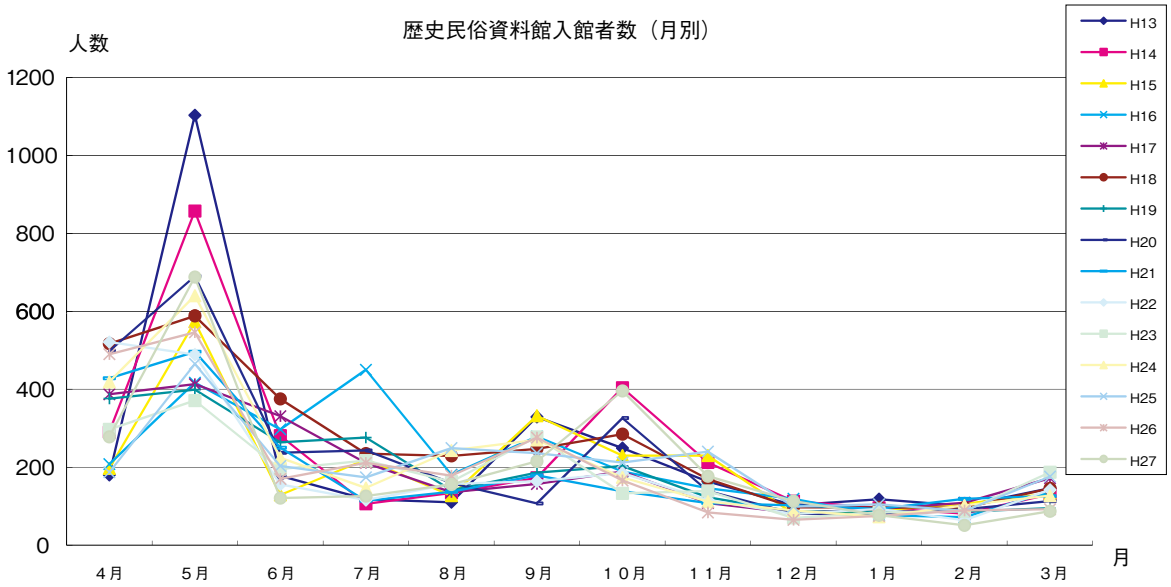


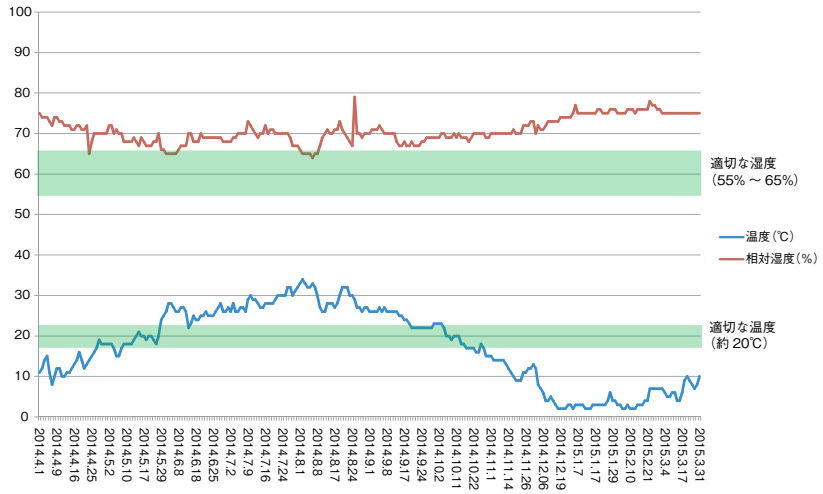
区　分	面　積（㎡）	現　状
展示室	134.772	常設展示室
収蔵庫 1	31.500	収蔵庫
収蔵庫 2	67.500	収蔵庫・倉庫
研修室	27.000	職員事務所
事務所	18.000	職員事務所
倉庫	8.600	倉庫
燻蒸室	10.500	倉庫
廊下（共有部分）	95.000	展示・休憩スペース

名　称：能美市立歴史民俗資料館
設　置：昭和 59 年（1984 年）４月 29 日（寺井町立歴史民俗資料館として）
所在地：石川県能美市寺井町を 20 番地
構　造：鉄筋コンクリート１階建（高床式）
面　積：敷地面積 2,839 ㎡・延床面積 404 ㎡
利　用：開館時間９時～ 17 時・毎週月曜日、年末年始休館・入館無料
　　年間入館者数 2,500 人前後
資料数：【考古資料】・能美古墳群出土品約 3,780 点（破片資料含む）
　　・遺跡出土品 約 250 箱（長さ 65× 幅 40× 高 14.5cm サイズ）
　　【歴史資料】・古文書、図書資料 830 点
　　・写真資料 401 点
　　【民俗資料】・1,984 点

図 52　能美市立歴史民俗資料館の概要１







常設展示室温湿度
（平成 24 年度）

図 53　能美市立歴史民俗資料館の概要２

立地面では和田山古墳群西側登り口に近接しており、古墳群と資料館を一体的に見学するうえで利便性が高い。しかし、史跡公園の入口と大型駐車場からは離れた位置にあり、これらと直結もしていないことから、場所がひじょうにわかりにくくなっている。車やバスで来館する際は、住宅地に面した狭い道路を侵入しなければならず、特に大型バスの団体見学では不便が生じている。また、小規模な資料館であることから、展示室の狭さやトイレの少なさなどでも大人数の団体見学に十分な対応ができていない点もあげられる。

職員は学芸員２名、非常勤職員２名を数えるが、資料館そのものの運営よりも史跡能美古墳群の保存、活用事業、市内の埋蔵文化財保護、市指定文化財等の維持管理など市域全体の文化財に関する幅広い業務を担っている。

能美市立博物館　能美市立博物館は、昭和53年（1978年）に「辰口町立博物館」として県内７番目の登録博物館として開館した。当初は図書館と併設していたが、町立図書館の新設に伴い平成16年度に内部がリニューアルされている。地下１階地上３階の鉄筋コンクリート構造、延べ床面積約1,541㎡の規模を有している。

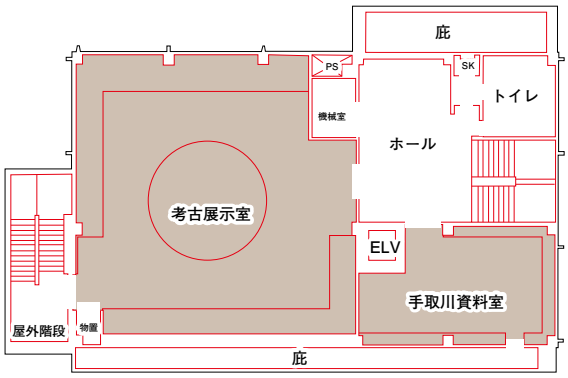
辰口町域を中心とした市内の歴史・民俗・自然・美術を幅広く取り扱っている。現在、遺跡出土品約2,000箱（長さ65×幅40×高14.5cmサイズ）、古文書約10,000点、民俗資料約1,000点、絵画等美術品約160点の所蔵量である。２階の「考古展示室」では旧石器から近世にわたる遺跡の出土品が公開されており、能美古墳群との関連では西山古墳群の大部分が旧辰口町域に含まれていたことから、当古墳群から出土した馬具（レプリカ）など展示されている。２階には「手取川資料室」、３階には「民具展示室」があり、１階のギャラリーでは年間を通じてさまざまな展覧会や特別展示が行われている。能美古墳群に関連した「秋常山古墳群と能美市の古墳時代展」（平成23年度）や「能美古墳群出土品里帰り展」（平成26年度）も本ギャラリーで開催した。地下１階は貴重収蔵室や体験教室があり、企画展に合わせたさまざまな体験事業が行われている。

入館料は無料で、年間12,000名ほどの来館者を数える。職員は、館長１名、学芸員２名（常勤１名・非常勤１名）、事務職員１名（常勤）、非常勤職員１名で運営しており、夏季・秋季の企画展示や各種講座、体験事業など年間を通じたさまざまな博物館活動とともに、市内の自然（生物・植物など）に関する調査、保護も行っている。

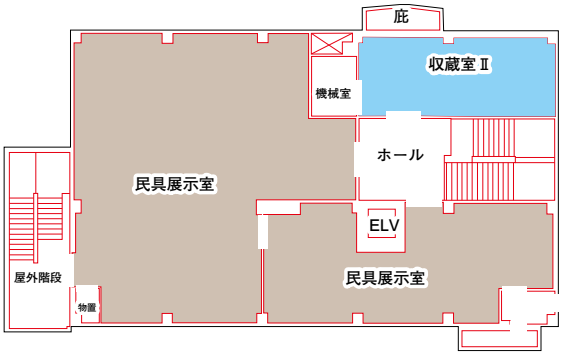
館内のリニューアルが比較的最近であることから、空調設備や防犯システムは整備されている。しかしながら、地下１階にある貴重資料収蔵室については温湿度コントロールができず保存上適した環境が維持できていない。博物館という性格上、さまざまな材質の資料がこの収蔵室に一括保管されていることも環境の維持を困難にしている。地下という場所も大雨時の浸水が心配される。また、近年では長年

写真37　考古展示室

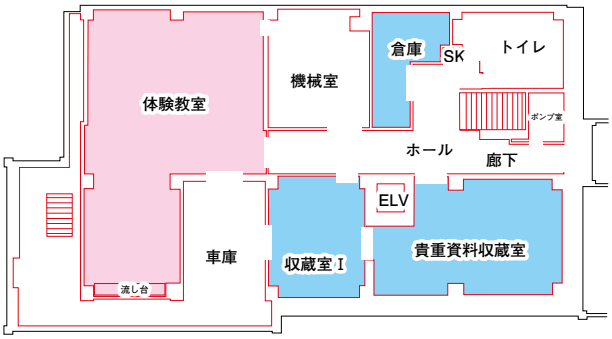
写真38　貴重収蔵室



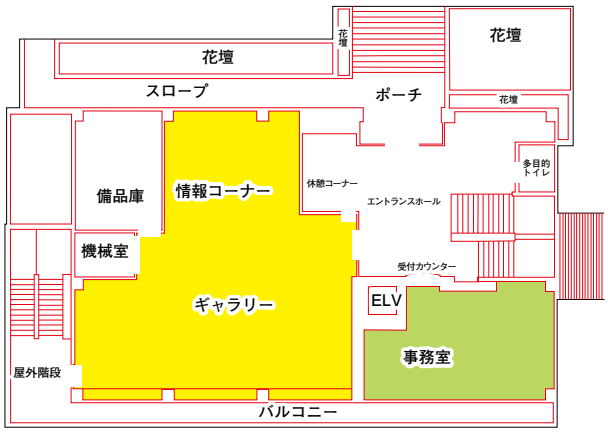
2 階



3 階



地下 1 階

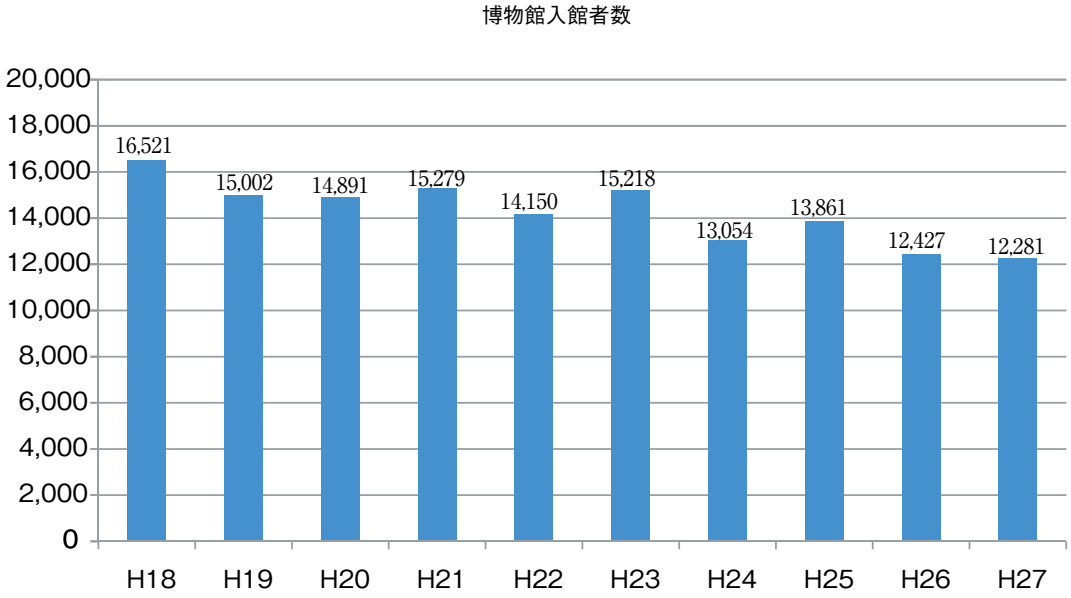


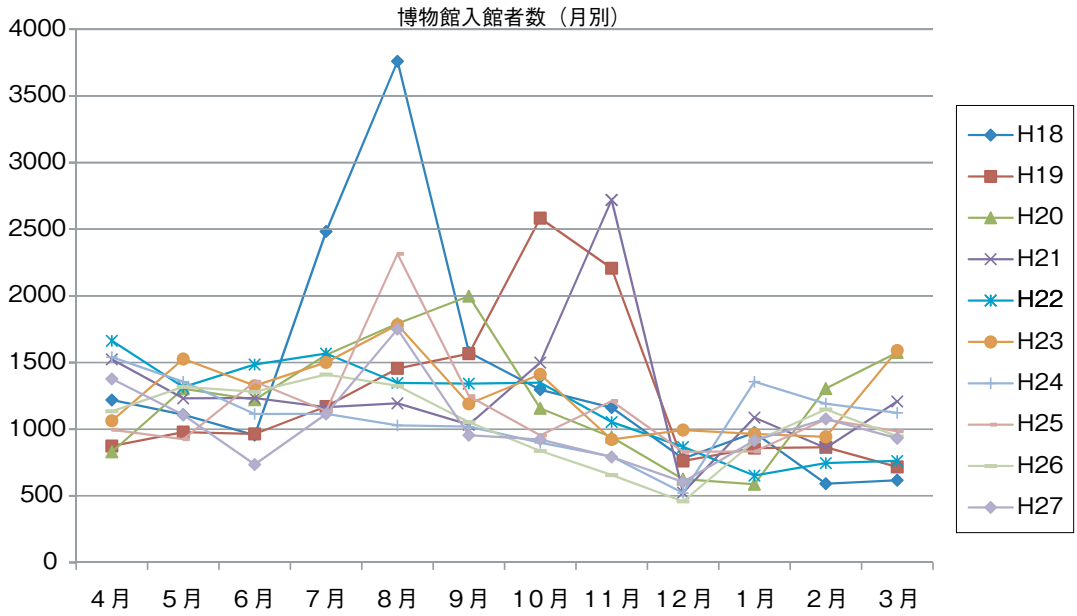
1 階

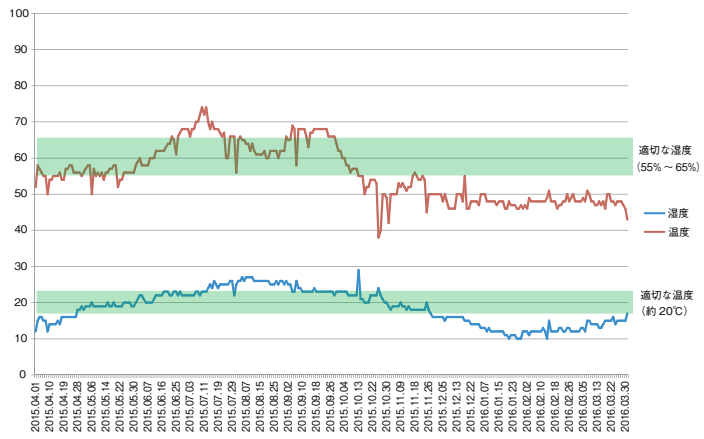
区　分	面　積（㎡）	階　数
民具展示室	259.0	3 階
収蔵室Ⅱ	42.0	3 階
考古展示室	217.5	2 階
手取川資料室	60.0	2 階
ギャラリー・情報コーナー	147.0	1 階
事務室	56.0	1 階
体験教室	114.5	地下 1 階
収蔵室Ⅰ	32.5	地下 1 階
貴重資料収蔵室	61.0	地下 1 階

名　称：能美市立博物館
設　置：昭和 53 年（1978 年）12 月 6 日（辰口町立博物館として）
所在地：石川県能美市倉重町戊 80 番地
構　造：鉄筋コンクリート 4 階建（地下 1 階、地上 3 階）
面　積：敷地面積 923 ㎡・延床面積 1,541 ㎡
利　用：開館時間 9 時～ 17 時・毎週月曜日、年末年始休館・入館無料
　　年間入館者数 12,000 人前後
資料数：【考古資料】・遺跡出土品 約 2,000 箱（長さ 65× 幅 40× 高 14.5cm サイズ）
　　【歴史資料】・古文書約 10,000 点
　　【民俗資料】・約 1,000 点
　　【美術資料】・絵画等約 160 点

図 54　能美市立博物館の概要 1







貴重資料収蔵室温湿度
（平成 27 年度）

図 55　能美市立博物館の概要２

に渡る資料の収集や合併に伴う資料保管の一元化により、資料数が増加し収蔵スペースの確保が難しくなっている。

建物としては建築から40年近くが経過しており、構造的な老朽化が懸念される。特に昭和56年以前の旧耐震基準の建築であることから、不特定多数の来館者が訪れる公共施設としては耐震診断や耐震工事などの対策が早急に必要である。

史跡能美古墳群との関連では、最も近い西山古墳群からも約２kmの距離があり、史跡の一体的な保存管理、活用を行ううえでは立地の面で適していない。また、場所がわかりにくく、進入路や駐車場の入口が狭いうえ大型車両の駐車スペースも設置されていないことから、大型バスでの団体利用では不便が生じている。

（２）課題

既存施設の概要と現状について整理を行った結果、以下の点が主要課題としてあげられる。

①歴史民俗資料館、博物館ともに建設から30年以上が経過し、施設の老朽化が進んでいる。特に博物館は耐震構造上の問題を抱えている。【施設の構造】

②両館とも空調設備が万全でなく、収蔵資料の保存上適切な環境が十分に維持できていない。【資料の保存】

③両館とも長年にわたる資料の収集、調査により資料数が増加しているが、展示・収蔵スペースが限界に達しており、十分な公開、保管ができていない。【資料の公開・保管】

④歴史民俗資料館は施設が小規模であり企画展や体験事業ができない。また、収容人数も少ないことから小学校や一般団体での利用時に十分な対応ができていない。【施設の規模】

⑤両館ともに場所がわかりにくく、進入路や駐車場の設備が十分でないことから、大型バスでの団体見学において不便が生じている【周辺の整備】

⑥文化財を保存、活用する施設として同様の機能を有する両館が分散して設置されており、文化財の管理、組織運営の面において十分な体制がとれていない。【施設の分散】

第２項　整備の方針

以上の現状と課題をふまえ、ガイダンス施設の整備方針を以下のように示し、今後、具体的な検討を進めていく。

１．史跡能美古墳群のガイダンス施設を、既存の能美市立歴史民俗資料館と能美市立博物館の機能を統合した総合博物館として整備し、史跡をはじめとする市内の文化財資料を一元的に保存、活用していく。

２．総合博物館の整備内容については、有識者と市民から構成される「能美市立博物館整備基本計画策定委員会」において市政の将来ビジョン、市民の要望、財源の確保等をふまえたうえで具体的な検討を行っていく。

３．総合博物館の設置場所は、複数の候補地から諸条件を検討したうえで、史跡能美古墳群の一体的な保存管理・活用に最適な場所を選定する。

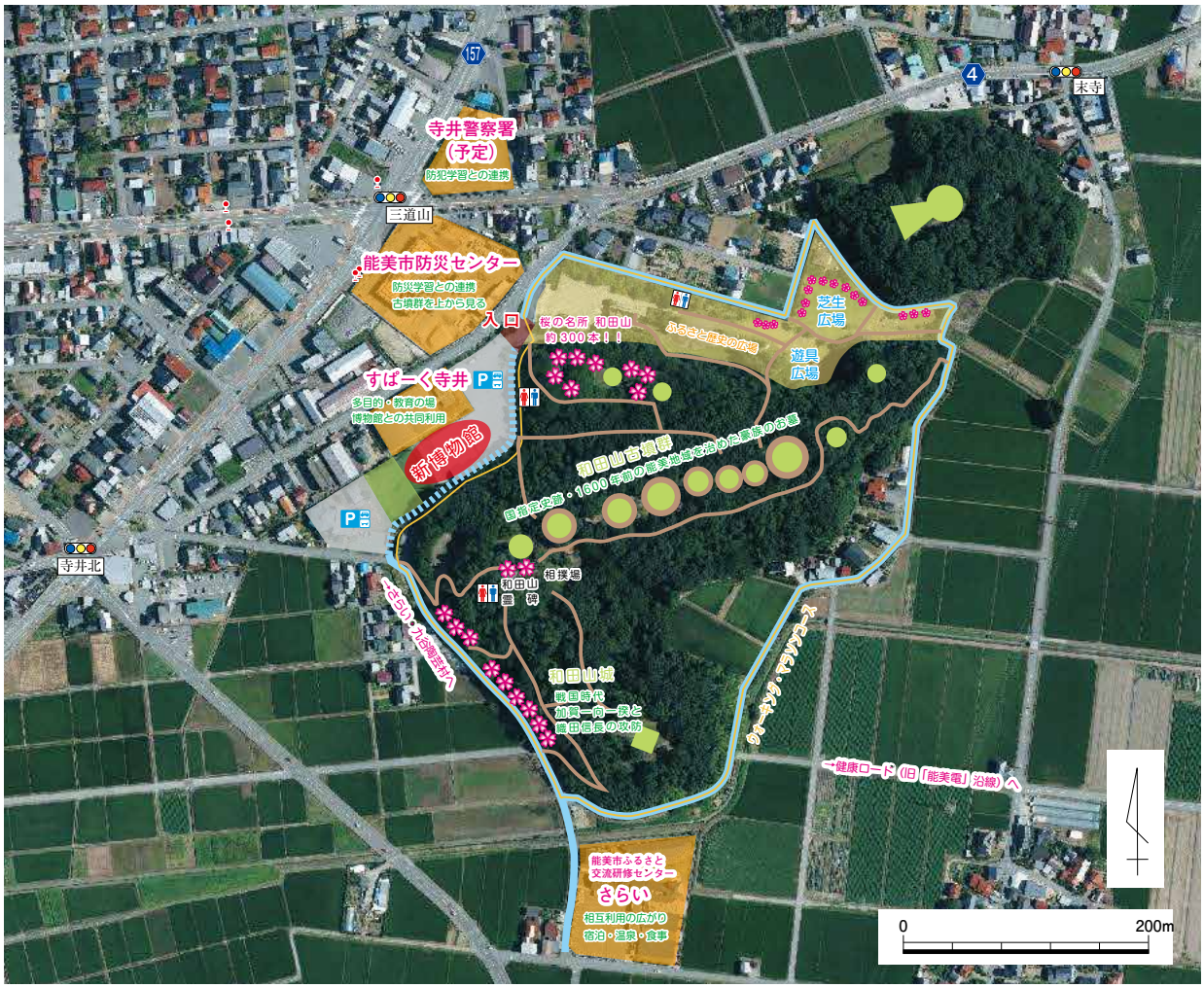


図56　新博物館建設予定地

活用ゾーン

体験室（講座・学習室）
屋外体験広場
市民ギャラリー
情報コーナー
映像コーナー
休憩スペース　など

展示ゾーン

ホール展示
第１展示室「能美の歴史と自然」
第２展示室「能美古墳群の世界」
特別展示室　など

収蔵ゾーン

一般収蔵庫
特別収蔵庫
写真庫
書庫　など

作業ゾーン

受付・事務室
展示準備室
調査整理室
写真撮影室
トラックヤード　など

図57　新博物館ゾーニング案

第４節　実施計画

本書で示した整備基本計画にもとづき、下記の工程に基づきながら着実に保存整備事業を推進していく。まずは現在進めている土地の公有化を早期に完了させるとともに、本計画に基づいた発掘調査、実施設計の作成を行う必要がある。保存整備事業は文化庁及び石川県教育委員会の指導を得ながら、専門有識者や地元町会などで構成される整備委員会を立ち上げて進めていく。なお、現状では西山古墳群の保存整備事業を平成34年（2022年）度に完了する計画としているが、公有地化の進捗状況や財源等により工期の変更や部分的な開園など適宜見直しを行うものとする。また、他支群の再整備については繁茂した樹木の伐採や防災対策を優先しつつ、西山古墳群保存整備事業の進捗状況と財源等を勘案しながら進めていく。ガイダンス施設については、総合博物館として平成31年度の開館を目指していく。

平成35年（2023年）は弘仁14年（823年）の加賀立国から1,200年目にあたり、「能美郡」誕生の節目の年でもある。能美郡の礎を築いた能美古墳群を含めて、関連イベントの開催など地域の歴史的な記念年として盛り上げていきたい。

表 11　史跡能美古墳群保存整備事業スケジュール案

※平成 34 年度に西山古墳群の整備工事が完了するものとして想定。財政状況や公有地化の状況等に応じて随時見直す。